

平成28年度文化庁
芸術祭参加作品
関西テレビ
ドキュメンタリー番組

上映会



黒田兄弟(左・弟の孝義さん、右・兄の雅夫さん)

日時

平成29年8月26日(土)

9:30開場、10:00開始～12:00

上映会後、体験者交えての懇談
を予定しています。

場所

岡山国際交流センター

地下レセプションホール

岡山市北区奉還町2-2-1 TEL086-256-2905

JR岡山駅運動公園口(西口)から徒歩3分

参加費 **無 料**

事前にお申し込みください

詳細は裏面をご覧ください

主催:特定非営利活動法人岡山市日中友好協会

終戦時満州で、兄は戦争孤児となり一人で日本に帰国、弟は中国人に預けられた。

生き別れになった兄と弟が40年ぶりに再会を果たし、弟は中国人残留孤児として帰国した。

しかし日本語しか話せない兄と中国語しか話せない弟は、言葉や文化の壁にぶつかり悩む。

そして兄と弟は、おもいでを河を探すため満州に旅立つ。

兄と弟
— 満州おもいでを河へ

取材に協力しました

兄の黒田雅夫さんには平成27年11月、当協会主催の「中国残留孤児問題を考える」講演とパネルディスカッションでその体験を語っていただきました。そのご縁で、黒田さんご兄弟を取材する関西テレビの2回の現地取材の際、渡航手続き、総領事館への協力依頼、現地への同行、通訳など全面的に協力させていただきました。

詳しい番組の内容は・・・

兄の黒田雅夫さん（79歳）、そして弟の孝義さん（76歳）。
兄弟は、お互いの思いをうまく伝えることができない。
兄は日本語、弟は中国語しか話せないからだ。

2人の人生には戦争の歴史が深く関係している。
太平洋戦争が終わるまで、中国東北部に存在した日本の傀儡国・満州。
日本が移民政策を進める中、兄弟の家族も「満蒙開拓団」として中国に渡った。
兄は7歳、弟が3歳のときだった。

しかし翌年、日本は戦争に負け、ソ連の侵攻・現地人の襲撃、敵陣にとり残された開拓団の逃避行は悲惨を極めた。混乱のなか、幼い弟は中国人に預けられ、兄は戦争孤児となって一人で日本に帰国した。

生き別れになった兄弟は1987年、40年ぶりに再会を果たす。身元判明の決め手は、弟が兄との思い出を描いた河のスケッチだった。弟は「中国残留孤児」として、希望に胸を膨らませて帰国した。

しかし、日本での暮らしは、思い描いた理想とは違っていた・・・

日本語が覚えられず、日本社会に溶け込めない現実。
帰国から30年近く経つ今も、「日本人として扱ってもらえない」と疎外感があり、あのまま中国にいた方がよかったのか・・・と悩む日々を送っている。 …（中略）…

兄は戦争孤児として帰国、戦後をたくましく生きぬき、石材業を営んできた。弟の帰国のために、「誰よりも一生懸命に面倒を見た」という自負がある。弟の仕事を探したり、家の世話をしたり、奔走してきた。弟と再会できたことが心から嬉しかったからだ。
しかし時の経過とともに、弟の気持ちを理解できないことが増えてきた。
兄弟の絆を取り戻したいが、言葉や文化の壁にぶつかり、兄も悩んでいる。

そんな時、かつて暮らしていた満州へ行く話が持ち上がった。
数年前から活動している「語り部」で知り合ったNPO岡山市日中友好協会が提案してくれたのだ。

兄はその旅に弟を誘うことに決めた。
兄が弟に見せたかったのは、身元判明の決め手になったスケッチの「河」。
2人は、地名すら定かでない開拓団の跡地を探して回る。

6日間の旅で、2人は兄弟にとっての“おもいで河”を見つけることができるのか・・・。
そして、何を感じたのか・・・。

戦争に翻弄された兄弟。
その人生を通して、改めて戦争と人間について考えます。

（関西テレビ ホームページより <https://www.ktv.jp/document/161122.html>）

お申し込みの方法

電話、FAX、E-mailにてお願いします。

申込先：特定非営利活動法人岡山市日中友好協会

TEL 086-225-5068 FAX 086-225-5041 E-mail oknittyu@yahoo.co.jp

ご氏名	
お電話番号	